

[平成13年度 普及に移す技術]

斑点米の発生を防止する薬剤散布時期							
[要約] 早生品種において、カメムシ類による斑点米発生を防止するための薬剤散布適期は、カスミカメムシ類では穂揃期、ホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシなどは糊熟初期以降です。							
農業試験場・生産環境部・昆虫研究グループ 園芸試験場・営農環境研究グループ				契機	普	要請元	南越・丹生 農林総合事務所
部会名	生産環境	専門	作物害虫	対象	稲類	分類	普及

[背景・ねらい]

米の品質検査において、斑点米の着色粒によって等級が格落ちすることが多くみられます。近年、カスミカメムシ類の発生が急増傾向にあり、従来から生息している種類と混在して発生しています。このような混発地域において斑点米の発生を防止するための防除適期を早生品種で明らかにします。

[成果の内容・特徴]

1. カスミカメムシ類の発生が多い圃場では、カスミカメムシ類の発生最盛期は7月下旬となり、早生品種の穂揃期から乳熟期に当たります(表1)。
2. カスミカメムシ類による斑点米は、穂揃期の薬剤散布効果が高くなります(図1)。
3. ホソハリカメムシやトゲシラホシカメムシによる斑点米は、糊熟初期以降の薬剤散布効果が高くなります(図2)。
4. カスミカメムシ類やホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシなどが混発している圃場では、穂揃期と糊熟初期を含めた防除が必要です。

[成果の活用面・留意点]

1. ホソハリカメムシやトゲシラホシカメムシなど従来のカメムシ類に加え、カスミカメムシ類が混発している圃場で利用できます。
2. カスミカメムシ類の発生がほとんどなく、ホソハリカメムシやトゲシラホシカメムシだけが発生している圃場では、糊熟初期以降を重点的に防除を行います。
3. イタリアンライグラスなどカスミカメムシ類の発生源付近の圃場では、穂揃期の薬剤散布が重要です。

[具体的データ]

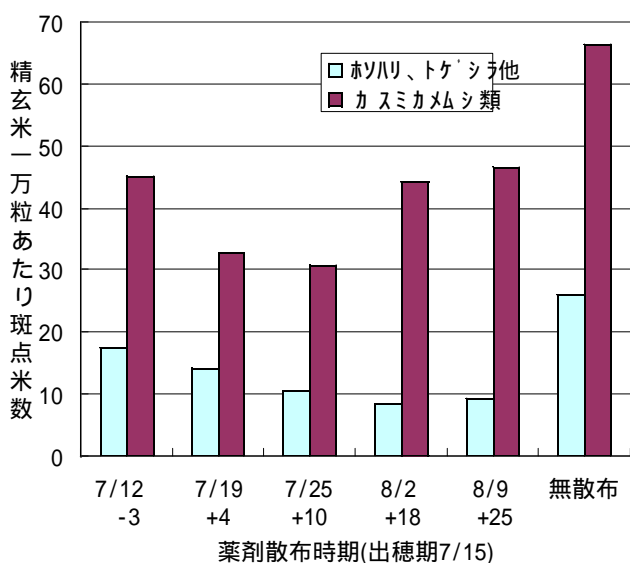


図1 薬剤散布時期と斑点米発生量(圃場A)
供試薬剤 :BPMC+PAP粉剤DL 4kg/10a

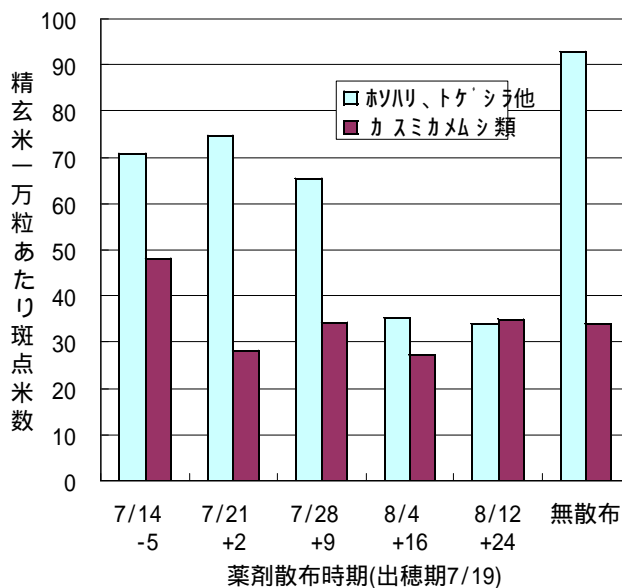


図2 薬剤散布時期と斑点米発生量(圃場B)
供試薬剤 :BPMC+PAP粉剤DL 3kg/10a

表1 水田でのカメムシ類の発生状況 (圃場A)

調査月日	アケヒケ		ホソド		カスシ		カスミ		ホシ		カメ
	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	
6/26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
7/4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
7/11	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
7/17	2	0	4	2	4	0	1	0	0	0	
7/27	19	0	6	0	0	0	3	0	0	0	
8/3	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	
8/8	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	
8/21	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	

注 30回振りすくい調査(頭数)



トケシラホシカメシ 頂部 側部
ホソリカメシなど カスミカメシ類

斑点米の模式図

斑点米の被害の様相により、加害カメムシの種類を類別することができます。